広報伊方町

発行所 愛媛県西宇和郡 伊方町
編集 伊方町町長公室
印刷所 尾上印刷所 八幡浜市天神通 電話 (2)0091番

伊方火葬場が完成

火入れ式終わる

完成を急いでいました伊方火葬場ができあがりました。

この伊方火葬場建設につきましては、十二月号で紹介しましたがこのたび完成し、一月二十二日川永田宿名峠の火葬場で火入れ式が行なわれました。

火入れ式には、町長はじめ町議会議員、工事施行関係者多数が参列して、おごそかに挙行され、町長の手によって重油バーナーに火がともされ無事火入れの儀を終りました。

新設された火葬場は、鉄筋コンクリートブロック造りで近代センスあふれる風格を漂よわしています。

総建設費は四百十三万円で、このうち建物工事費百六十万円、炉体工事費百二十一万円、再燃炉工事費百二万円、納骨塔工事費八万円が主なもので、用地買収費二百八十万円、整地費十六万円を含めますと七百九万円の事業となりました。

この火葬炉の大きな特徴は無煙無臭であるということです。

消煙、消臭の役割を果す再燃炉が同時に併設されている優秀炉で以前のように煙が多くでるようなことはありません。

また、同火葬場には待合室がまだありませんので待合室を設けるほか、火葬場沖側を危険防止のため外さく設置や、国道から火葬場までの車乗入れ道路の舗装などがこんごの事業として残されています。

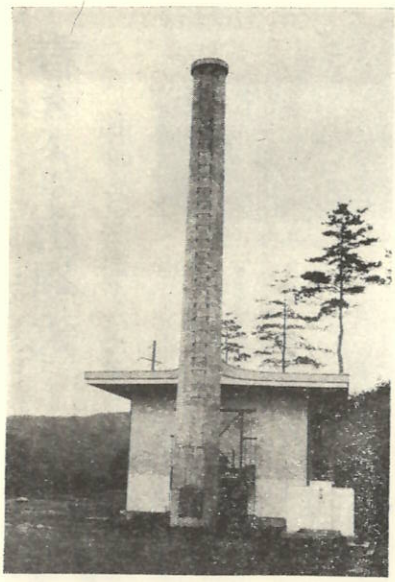
火葬場といえば、とかく陰気な場所とされていますが、ころした考え方をのぞくため、町では環境整備を行ない苗木や草花を植えて公園のような花園にしたい考えです。

伊方地区のみなさんには、以前の伊方火葬場が地すべりで、使用不能となり、いままでたいへんご迷惑をかけていましたこと、紙上よりおわび申し上げます。

火葬場使用料 千七百円

火葬場の使用料は、昨年四月に改正され一回使用につき千七百円なってにいます。

火葬についてのお問い合せは、役場民生課へ



川永田宿名峠にできあがった火葬場 炉は最新型で消煙、消臭の役割を果す再燃炉が併設されている

第63回定例町議会

ゴミ処理施設を新設

一般会計 2,731万円ふやす

伊方町議会第六十三回定例議会が十二月二十三日、二十四日の会期二日間で行なわれました。

この定例議会には、昭和四十五年度一般会計補正予算（第八号）、昭和四十四年度一般会計、特別会計の決算認定など二十三議案が上程され審議の結果、全議案可決されました。

定例会で可決された、主な議案はつぎのとおりです。

◎伊方町児童手当支給条例の制定について

児童手当を支給 四人目から月千円

町では福祉施策の一つとして、児童手当を支給することになりました。

手当支給は、幼児から義務教育（中学三年まで）終了までの子どもを育てている家庭で、四人目から一人に月額千円支給されます。

今回の場合に限り、昭和四十五年十月にさかのぼって支給することになりました。

手当は毎年三月、七月、十一月の三回にわけて支給されます。

町では町内該当家庭を調査して各部落の民生委員さんを通じて、連絡しましたが、調査もれのある家庭では民生課へ申し出ください。

支給対象は一家庭児童数四人目から支給されることとなっていますが、そのうち二人が中学を卒業して三人となった家庭は支給対象からのぞかれます。

その他、くわしいことは役場民生課へお問い合せください。

◎伊方町奨学資金貸付基金条例制定について

奨学資金を貸付 高校進学希望者へ 月三千円

本町で初の奨学資金貸付基金条例が誕生しました。

この奨学資金の貸付は、以前三菱化成の重役をされていた故清水礼三氏（加周出身）が、町へ百万円寄付されました。町では同氏の意志を尊重して毎年五人程度、高校進学の希望者に奨学金を在学期間中一カ月三千円以内を無利子で貸付されます。

この資金の貸付の決定などは、伊方町奨学金運営委員会で検討されて決定されますが、町内で毎年中学を卒業する生徒の中で学業が優秀にもかかわらず、家庭の事情で高等学校へ入学する学資の支弁に困難な生徒に貸付けられます。

借りたお金の返済方法は、高等学校卒業の翌月から三年間で毎月均等に償還しなくてはいけません

支給されます。

今回に限り、昭年の十月にさかのぼって支給されますが、町内で百八十人見込まれています。

ゴミ処理場は 伊方火葬場横

◎衛生費

こんどの補正予算の中で一番大きな事業は、ゴミ焼却施設工事の関係です。

ゴミ処理施設工事費に七百六十七万円、ゴミ収集車購入費として百五十九万円計上されており、総額九百二十六万円の事業になります。新設場所は川永田宿名峠の伊方火葬場横を予定しています。

一日の焼却能力五トンを有する規模のもので、町内特別清掃地区の指定を受けた地域からゴミ収集が行なわれます。

このゴミ収集のため二トン積載の収集車も同時に購入します。

町内を〝清潔で美しい〟環境づくりをめざして新設されるものです。

◎教育費

佐々木記念館建築基金積立金として百万円計上されています。

奨学資金貸付基金に百一万円。

これらの使途については別欄に掲載していますので省略します。

◎佐々木記念館建築基金条例の制定について

佐々木記念館の 建築基金できる

本町が生んだ実業家、故佐々木長治氏から、町へ百万円寄付されましたが、町ではこの浄財をもとに、佐々木記念館を建築することになりました。

毎年、一般会計にある程度の予算計上を行ない、建築基金に積み立てることにしています。

◎監査委員の選任について

監査委員に福田氏

町の監査委員であった田縁筆一郎氏が昨年十一月三十日に逝去されましたが、その後任に福田儀郎氏（川永田）が選任されました。

福田氏は前町議をされていた有識者で、こんど町財務に関する事務の執行や、経営に係る管理など監査委員としての手腕を発揮されます。

◎人権擁護委員の推せんについて

人権擁護委員に 小川・山口両氏推せん

人権擁護委員の要職にもあった田縁筆一郎氏の逝去により、その後任として小川文一郎氏（長浦）を法務大臣あて推せんしました。

また、本町の人権擁護委員の定数が一人増員されたことによって山口勇氏（二見）を法務大臣に推せんしました。

こんど両氏の優れた識見と体験を生かされ、広く町民の相談相手となって活躍されます。

◎昭和四十五年度一般会計補正予算（第八号）

定例議会で補正された一般会計予算は一千七百三十一万円で、いままで予算額をプラスしますと五億八千三百九十六万円となり、六億円近くの大型予算になりました。

補正された予算内容については別欄に掲載しました。

◎昭和四十五年度伊方町国民健康保険 特別会計 補正予算（第二号）

十三万円追加され総額九千九百十六万円になりました。

◎昭和四十五年度伊方町水道事業補正予算（第三号）

◎昭和四十四年度伊方町一般会計歳入歳出決算認定について

昭和44年度一般会計

三年連続黒字決算

昭和四十四年度町の台所、一般会計決算ができあがり認定されました。

これをみますと、町の台所へ入ったお金の総額は四億二千三百七十九万円に対し、使ったお金は、四億一千五百八十四万円で差引き七百九十五万円になりますが、この中で翌年度へ繰り越すべき事業費が二百五十七万円ありますので実質黒字額は五百三十八万円になります。

これで三年間連続して黒字決算ということになり、町の台所状況は堅実な歩みをつづけていることがわかります。このことは、町民のみなさんが町政に対する深いご理解の賜ものです。

くわしい台所のきりまわし状況については、次号で紹介することにします。

◎昭和四十四年度国民健康保険特別会計歳入歳出決算認定について

国民健康保険特別会計では、昭和四十四年度は千三十四万円の黒字決算となりました。

補正予算の使いみち

ゴミ収集車も購入

こんどの定例町議会で補正された一般会計予算の額は一千七百三十一万円です。

この中には、ゴミ処理施設の新設費や豊之浦、長崎線道路新設工事費などが含まれており、いままでの予算額と合算しますと総額五億八千三百九十六万円となり、大型予算になりました。

そこで、補正された主な予算内容をみてみましょう。

豊之浦・長崎線 道路を新設

◎民生費

地方改善事業として豊之浦、長崎線道路が新設されます。

この新設工事は豊之浦から長崎鼻を通り船場部落の集落まで車乗入ができる幅員四メートル道路を千九百メートルつくるもので、五百万円の費用を投入します。

児童手当に百十二万円計上されました。

これは別記していますように、町が福祉施策の一策として行なうもので、子どもが四人以上いる家庭では四人目から一人に月額千円

第二分団（中之浜）のポンプ格納庫が完成

伊方町消防団第二分団（中之浜）にポンプ格納庫ができあがりました。

鉄筋コンクリート二階建で、一階が機械器具格納庫、二階は団員詰所になっています。

以前と同じ場所の国道端に建設されました。

このポンプ格納庫新設にあたって町から補助金として十万円助成されました。昭和四十五年度において町内で、この第二分団を含め四個分団がコンクリート造りの格納庫に生まれかわったわけです。

また、近く第三分団（向）でも工事に着手します。

各分団でポンプ格納庫、防火水槽の新設計画のある場合は、前もって役場町長公室まで連絡してください。

奥老友会へ 善意の贈り物

八幡浜市に在住されている岩見未五郎氏（奥出身）より、奥老友会員に座布団が寄贈されました。

同氏は、敬老の精神をもってお年寄りが、暖く楽しい日々をおくってもらうよう寄贈されたものです。

奥老友会では、この善意の贈り物に心より感謝しています。

春をよぶ出初式

消防の心意気しめす

新しい年のはじめをかざる恒例の昭和四十六年度伊方町消防団出初式が、一月八日伊方中学校校庭で挙行されました。

式には道上正団長以下、町内二十一個分団三百二十人、仁田之浜女子火防隊十人、大浜女子火防隊十人が出動し、町内外から多数の来賓を迎え、団員は終始きびきびした節度ある態度で、人員服装の点検、機械器具の点検、ポンプ操法、分列行進が規律整然と行なわれ、特にことしは大浜女子火防隊が初参加。

団員たちは、消防の力で町民の生命、身体、財産を保護し、災害から守るという使命感をになう勇姿を披ろうしました。

つづいて表彰式にうつり、消防団員として永年消防団活動に従事して多大の貢献のあった団員に、県知事、県消防協会長、八西連合会長、町長よりそれぞれ表彰状、記念品がおくられました。

また、各分団へ消防施設の充実のため多額の寄付をされた篤志家の方々に町長、団長より感謝状がおくられ、春をよぶ出初式は挙行終了しました。

気はくのにもった分列行進

仁田之浜女子火防隊 県知事表彰

仁田之浜女子火防隊（隊長山口久美子）が県知事より協力団体章の表彰を受けました。

同火防隊は、昭和四十一年四月に結成され、その間、消防活動に尽力するとともに、地元火災の際には率先して消火作業に従事したことなどの功績によって表彰の栄に輝いたものです。

なお、表彰者は、つぎのとおりです。

◎県知事表彰
○功労章　道上正、鈴木勲夫
○協力団体章
仁田之浜女子火防隊

◎県消防協会長表彰
菊池仁志、上田伊勢吉、川上勇一、大浜義交、池上幸治、山岡明敏、松本頼文

◎八西消防連合会長表彰
○無火災表彰（金馬れん表彰）
第十二分団（向）

○無火災表彰（平田授表彰）
第一分団（大浜）　第六分団（小中浦）　第七分団（中浦）　第九分団（豊之浦）　第十八分団（田之浦）

○個人表彰
飛田文博、二宮長則、福島太郎、阿部義広、坂田茂明、神野照雄、清家修、城岡幸夫、平家敏夫、山下源太郎、鳥津光則

○感謝状
町長公室長　脇田　道（消防主任）

◎町長表彰
山藤吉四郎、菊池輝彦、寺谷貞明、山口久美子、土井悌二、米田勝彦、木戸昭、宮本重男、福島武敏、清水正之、水口一吉、井関睦彦、清家静雄、渡辺由勝、堀内政和、桝田伝治、谷村正久仁、道上勲、村上徳久、井上邦久、上野三喜男、鳥津多門、上田高男

◎町長感謝状
前伊方町消防団長　松田文治郎

◎町長・団長感謝状
浜本浩、吉谷利一、大黒良一、米田幸悦、宮脇惣市、山口晴男、上田芳男、谷口伝四郎、矢野吉衛、黒田段栄、門田清隆、上甲金雄、家本辰尊、中田丈穂、門田泰邦、上甲英次郎、梶谷三郎、山口綱雄、小中浦部蔵、渡辺友一、石崎朝道、井上伊勢吉、吉本武、渡辺高十郎、市木昌男、井上賢太郎、井上富士二郎、井上次郎吉、矢野七郎、大通孝行、阿部喜元、石橋五男、阿部一幸、水上一衛、岩見寛定、川縁勇、神山嘉寿雄、西村吉一、古田光男、山本照雄、吉田金太郎（敬称略）

はたちの春……新成人おめでとう

胸はって大人の仲間入り

大人の仲間入りを祝い、はげます成人式が一月十五日中央公民館で行なわれました。

この日、伊方町では百人の新成人が誕生し、一人前の大人としてスタートをきったわけです。

町では、これら成人者の門出を祝福するため中央公民館で五十二人（男二十七人、女二十五人）が出席し、来賓多数が見守るなかで式典が挙行されました。

当日は、からりと晴れ渡り、冬の日がまぶしく道路を照らす好天気に恵まれ、若者の前途を祝うかのようでした。

会場は、若いエネルギーが満ちあふれ、みんな元気いっぱい、晴々とした顔、若い大人の熱気が漂っていました。

式典は「君が代」斉唱、成人者の自己紹介のあと、山本町長、栗田教育委員長は「こんこの日本のにない手として、大人の自覚と責任ある行動をとり、がんばってほしい」と祝福。

そのあと、成人者へ記念品（鏡）が山本町長より手渡されました。

ついで、町議会議長、青年団、婦人会、老人クラブ各会長や、来賓者全員から「健康第一、立派な社会人になってほしい」と激励。

これに答えて、中田いの江さん（仁田之浜）が成人者を代表して「私たちは、きょうの感激をいつまでも胸に秘め、大人としての責任の重大さを感じ、社会に役立つ人になるよう精進します」と誓いのことばをのべました。

つづいて成人者の・健康と活躍・を祈り万々三唱を行ない式典を閉じました。

式のあと東宇和郡田之筋小学校長清水貞一先生を迎え、「青年と政治」と題する記念講演があり、そのあと、記念撮影、楽しい会食フォークダンスなどをにぎやかな、ひとときを過ごしました。

ピアノ購入費に十万円

二宮澄男氏（畑出身）寄附

加周保育所のピアノ購入にあたり、香川県に在住されている二宮澄男氏（畑出身）より、同保育所へ十万円寄付されました。

同氏は、香川県木田郡牟礼町で石材業を手広く経営されている篤志家で、町の明治百年記念公園の石材も寄付されています。

加周保育所の園児たちは、この尊い浄財に深く感謝しています。

このピアノを利用して同保育所では、園児たちの楽しい歌声が、こだますることでしょう。

ここに紙上より厚くお礼申し上げます。

広報編集費にも

一万円

二宮澄男氏は、広報編集費に役立ててほしいと、一万円寄付されました。

この多額のご寄付に対し、紙上より厚くお礼申し上げますとともに、ご健康とご活躍をお祈り申し上げます。

町建築組合から

大工など一日二千七百円

伊方町建築組合では、一月三日総会（大師講）を開き、その席上昭和四十六年度の大工、左官、板金工の賃金が、昨年より三百円アップされ、一人役二千七百円に決定しました。

ぼくの作品　わたしの作品

詩

おとうさん

有芳米小三年　松田佳世

うちのおとうさんは
元気で　色もくろい
たまにしか　帰らないので
やさしい思い出ばかり
おとうさんは　力もちだ
おねえちゃんをおぶって
わたしをだいて立っても
へいきだ顔でわらってる
うちのおとうさんは
いまごろ何してるの
あったかい　テーブルの上に
おいしいものが　あるけどな

ゆやけ

有芳米小三年　清家あやこ

きれいだな
ゆやけは
お日様がしずむと
西の空を
きれいにそめる
あの　きれいな夕やけを
自分のものにしたい
そして　みんなにも
見せてやりたい

雪

有芳米小四年　兵頭衛

たくさんつもった雪
玉が　どんどん飛んでくる
雪は　おこったように
いきおいよくとんでくる
雪玉が顔にあたる
とても　いたい
雪玉は　当たるとこわれる
大きな船に　飛行機が
ぶつかっていくみたいだ
ぼくは　雪がっせんが
大すきだ
だが　手ぶくろをしないと
手がつめたくなり
しびれるかんじ

人

昭和45年12月末現在
世帯数　2,442戸
人口 9,426人（男 4,505人　女 4,921人）

えんむすび

昭和45年12月1日～12月31日

お誕生　おめでとう

昭和45年12月1日～12月31日

おくやみ

昭和45年12月1日～12月31日

お礼

大阪府堺市池田南町一八の二十二にお住いの坂本勇吉氏（豊之浦出身）より二千円

広報編集の費用にとご寄付いただきました。

紙上より厚くお礼申し上げますとともに、ご健康とご活躍をお祈り申し上げます。

編集後記

梅一輪一輪ずつの暖かさとなりました。

一月号だいへんおそくなりましたが、ことしもよろしくお願いします。

今月号は伊方火葬場が完成し、火入れ式が行なわれたことをトップにもって行きました。

また、第六十三回定例町議会で昭和四十五年度一般会計補正予算でゴミ処理施設費など二千七百三十一万円ふやされ、今までの予算額をプラスしますと総額五億八千三百九十六万円の大型予算になりました。

町内美化をめざしてゴミ焼却施設を新設すると同時に、ゴミ収集車を購入することになりました。

恒例の消防団出初式が行なわれ町民を災害から守る心意気を披ろうしました。

火災の多く発生するシーズンです。火の元はくれぐれもご用心でゴミ処理施設費など二千七百をノ（Y・O）